

超要点解説とキーワードで

わかる・使える

はじめての
論議

福田晃市 (ふくだ こういち)

福岡県に生まれる。大学では政治学を学び、大学院では教育学を学ぶ。修士論文は、朱子学を道徳教育の観点から論じる。公表された主な著作は、論文「若き朱子学者による現代日本の教育に対する提言」(日本リダーズ協会『労政ジャーナル』所収)、「中国兵法が教える戦い方」(文武館出版部『文武館』所収)、著書「基礎からよく分かる『近思録』」(明窓出版)、「1000の『兵法の法則』がマンガで3時間でマスターできる本」(明日香出版社)『超要点解説とキーワードでわかる・使える 孫子の兵法』(ソフトバンク クリエイティブ)『もうひとつの『孫子の兵法』』(PHP研究所)など。現在、教育関係の仕事にたずさわるかたわら、人生や仕事に役立てるために中国の思想を研究している。

【著者ホームページ】「中国兵法」

<http://www.geocities.jp/fukura1234/>

【著者アドレス】

abab@mx7.tiki.ne.jp

超要点解説とキーワードで

わかる・使える はじめての論語

二〇〇五年十一月二十六日

初版第一刷発行

二〇〇七年二月五日

初版第一刷発行

著者

ふくだ こういち
福田晃市

発行人

新田光敏

発行所

ソフトバンククリエイティブ株式会社

郵便番号

〒七・〇〇五二 東京都港区赤坂四・一二・一二三

営業

〇三・五五四九・一二〇一

編集

〇三・五五四九・一六六

装丁・本文デザイン

竹内雄一

組版

クニメディア株式会社

編集担当

山田真司

印刷・製本

図書印刷株式会社

*落丁本・乱丁本は小社営業部にてお取り替えいたします。

*定価は表紙に記載されております。

*本書の内容に関する質問等は、小社SEI編集部まで書面にてお願い致します。

禁無断複写・複製

©Kouichi Fukuda 2005 ©Softbank Creative Inc. 2005

Printed in Japan

ISBN4-7973-3272-7

◆**福田晃市**◆

著

超要点解説とキーワードで

わかる・使える

はじめの
論語

はじめに

モラルセンスをみがこう

この本は、『論語』^{ろんご}をわかりやすくするため、そのキーワードをぬきだし、それを今に役立てるにはどうしたらよいかを書いたものです。

その『論語』^{ろんご}は、春秋時代（前770年～前403年）の中国に生きた哲学者・孔子^{こうし}の言葉をまとめたものです。内容は、道徳心、家族愛、向学心などをもつて生きることの大切さについて、手をかえ、品をかえ、説いています。

今の社会は、モラルのない人や会社が増えたりとか（道徳心の欠如）、家族に乱暴をはたらく人が増えたりとか（家族愛の欠如）、勉強をしない大人が増えたりとか（向学心の欠如）、いろんな問題をかかえています。そんな社会を生きる人にびつたりの本でしょう。

ところで、孔子ですが、本名は孔丘^{こうしゅう}、字は仲尼^{あつとく}で、紀元前551年に生まれ、紀元前479年に亡くなったと言われています。

今の中国山東省^{山東せい}にあった魯国^{ろこく}に生まれ、若いころは貧しかったので苦勞します。生計をたてるため、いろんな仕事をしましたそうです。

で、20代の後半に魯国の役人となり、倉庫を管理する仕事につきました。しかし、30代なかばのとき、魯国で政変がおき、君主^{そんしゅ}が斉国^{せいこく}に亡命したので、孔子もいったん斉国に行きます。

その後、魯国に帰り、先生をして生活しました。そのことで名声もあがり、50代をすぎたとき、魯国の大臣に任命されます。このとき、齊国とのむずかしい交渉で活躍し、ふだんの仕事でも成果を上げました。しかし、政治を改革しようとして失敗します。

そんなこんなで魯国に失望した孔子は、50代のなかばをすぎたあたりに退職し、理想を実現するため、自分を採用してくれる国をさがして各国をめぐるります。こうして13年にわたり、旅を続けるのですが、どの国からも採用されませんでした。

このとき孔子は、すでに70歳くらいでした。そのため自分が活躍するのをあきらめたのか、魯国に帰り、教育によつて後継者を育て、その人たちに理想を実現してもらおうと考えます。

で、孔子の死後、門人たちは、孔子から教わったことをもちより、まとめます。こうして『論語』ができあがりました。

その教えは、いわゆる「儒教」もしくは「儒学」として、のちに中国の歴代王朝で経営理念として尊重されるようになりました。さらには東アジア諸国にも広まり、各国の文化に大きな影響を与えます。

しかし、近代化の時代に入ると、儒学は「過去のもの」として、すたれていきました。しかし、『論語』の精神は生き続けます。たとえば、洪沢栄一は、明治維新のあと、いろんな企業をおこして、日本の近代化に貢献した人物ですが、若いころに儒学を学んでおり、『論語』の精神で会社を経営しました。

この『論語』の精神は、今でも必要です。

これまでの日本は、「もうけ」を優先してきました。しかし、今では、もうけるだけでは社会はよくならず、会社もなりたないことが、多くの人にわかっています。これからは、「モラル」を優先しないと、やっていけません。だからこそ、これからの社会や会社をになう若い人やミドルには、ぜひとも『論語』に学び、モラルセンスをみがいてほしいと思います。

というわけで、この本が読者のタメになることを祈りつつ、「はじめに」を終わらせていただきます。

平成17年11月吉日 福田晃市

目次

はじめに 五

四

卷一

第一篇 学面

学ぶのが好きな人になろう 一六

こびへつらうのはやめよう 一八

反省できる人になろう 二〇

人を大切にしよう 二二

人としてすべきことを優先しよう 二四

まじめを自慢に思おう 二六

どっしりかまえよう 二八

誠実に生きていこう 三〇

本当の勉強家になろう 三二

第二篇 為政

卷二

第三篇 八倍

身のほどをわきまえよう 六四

きちんと心がけよう 六六

モラルあるリーダーになろう 三四

威服させるより心服させよう 三六

気持ちこめて親を大切にしよう 三八

プライベートをみて判断しよう 四〇

人を見る目を養おう 四二

歴史に学ぼう 四四

オールラウンドプレイヤーをめざそう 四六

自分の頭で考えよう。人の意見も聞こう 四八

知らないと言える度量をもとう 五〇

インフォメーションをインテリジェンスに変えよう 五二

まっすぐな人を大切にしよう 五四

頼りがいを身につけよう 五六

自分をブランド化しよう 五八

勇気をもって正しいことを実行しよう 六〇

かたちよりも中身を優先しよう 一六八
正々堂々と生きよう 一七〇
大事なことほど確認しよう 一七二
伝統は大切にしよう 一七四
理想的な上下関係をぎざこう 一七六
むかしのことより未来に目を向けよう 一七八
心から正しくなろう 一八〇

第四篇 ● 里仁

よい場所を選ぼう 一八二
正しく評価できる人になろう 一八四
名声へのこだわりをすてよう 一八六
自分の弱点をわきまえておこう 一八八
いつ死んでも悔いのない生き方をめざそう 一九〇
清貧に甘んじよう 一九二
ひろい視野で正しく生きよう 一九四
うまくいかないときは、自分のせいにしよう 一九六
まずは思いやりの気持ちを大切にしよう 一九八
もうけるより、正しくしよう 二〇〇
他人を見て、自分を見つめなおそう 二〇二
親の気持ちを尊重しよう 二〇四
親に心配をかけないようにしよう 二〇六

卷三

謙虚であろう 二〇八
口を動かすより、体を動かそう 二一〇
よく生きて、よい仲間を増やそう 二一二

第五篇 ● 公治長

口上手はやめよう 二一六
バカにもなれる人になろう 二一八
好ましくない人物とは絶交しよう 二二〇
自分が喜ぶより、まわりを喜ばせよう 二二二

第六篇 ● 雍也

しくじったら、やつあたりしないで見直そう 二二四
弱い人は助けよう 二二六
人の長所を活かそう 二二八
ワイルドでインテリな人になろう 二三〇
まっすぐ生きよう 二三二
上達したければ、楽しもう 二三四

卷四

相手の理解力にあわせよう 一三六

正義をつらぬき、困難に立ち向かおう 一三八

知恵と良心をもって、よりよく生きよう 一四〇

気品を身につけよう 一四二

人にゆずろう 一四四

一四六

第七篇 ● 述而

つねに向上していこう 一四八

モラルセンスを身につけよう 一五〇

見込みのある人を相手にしよう 一五二

いさぎよい出処進退を心がけよう 一五四

大胆であるより、慎重であらう 一五六

音楽で気持ちをコントロールしよう 一五八

さっぱりしよう 一六〇

みんなから学ぼう 一六一

モラル重視でいこう 一六四

まちがいを指摘されたら喜ぼう 一六六

卷五

第八篇 ● 泰伯

ほどよくやろう 一六八

見かけもよくしよう 一七〇

コツコツがんばろう 一七二

芸術で人格をつくりあげよう 一七四

ハウツーだけでなくポリシーも教えよう 一七六

リーダーなら、大きな度量をもとう 一七八

無責任なことはやめよう 一八〇

一八二

第九篇 ● 子罕

他人の都合も考えてやろう 一八四

りっぱな人をリーダーにしよう 一八六

若い人をしっかり育てよう 一八八

知、仁、勇の三拍子をそろえよう 一九〇

第十篇 ● 郷党

なにより人命を優先しよう 一九二

卷六

一九四

第十一篇 ● 先進

すなおさを大切にしよう 一九六

まずは現実を目を向けよう 一九八

限度をわきまえよう 二〇〇

むかしの偉人に学ぼう 二〇一

第十二篇 ● 顔淵

自分の弱さにうち勝とう 二〇四

非礼を嫌おう 二〇六

心の声に従おう 二〇八

一時の感情にふりまわされないようにしよう 二一〇

リーダーはメンバーの利益を優先しよう 二一四

好き嫌いはやめよう 二一四

「らしさ」を大切にしよう 二一六

問題には抜本塞源で対処しよう 二一八

忠勤に励もう 二二〇

よいことを応援しよう 二二二

みずからの影響力をわきまえよう 二二四

卷七

「善は急げ」の精神をもとう 二二六
友人にはさらりと忠告しよう 二二八

第十三篇 ● 子路

まずは身近な人材を大切にしよう 二三〇

まずは名目を正しくしよう 二三四

知識は使えるようになろう 二三六

率先垂範しよう 二三八

もうかつて喜ばないようにしよう 二四〇

まずは安心して暮らせるようにしよう 二四四

口コミを大切にしよう 二四四

成果をあせらないようにしよう 二四六

自然な情愛を大切にしよう 二四八

意欲と根気ががんばろう 二五〇

なれあいはやめよう 二五二

パワーハラスメントはなくそう 二五四

でんと構えよう 二五六

きちんと教育しよう 二五八

第十四篇 ● 憲問

でっかい夢をもとう 二六

発言よりも行動を、勇気よりも良心を重んじよう 二六二

つらいときこそ、わが身を正そう 二六四

親分みたいなりーダーになろう 二六六

ずけずけと言おう 二六八

上達をめざそう 二七〇

自分を高めるために学ぼう 二七二

たくさん苦勞しよう 二七四

理不尽には、まっすぐでしかえそう 二七六

つらくても努力していこう 二七八

二八〇

卷八

第十五篇 ● 衛霊公

苦しくても乱れない人になろう 二八二

どこでも通用する人になろう 二八四

正しいことのために生命を投げ出そう 二八六

まずは手段をととのえよう 二八八

卷九

将来のことを考えて今を生きよう 二九〇

正義をバックボーンにしよう 二九二

誇り高く生きよう 二九四

相手の気持ちになつて行動しよう 二九六

自分で確かめて判断しよう 二九八

今日の失敗を明日の成功につなげよう 三〇〇

たとえ上の指示でも、悪い指示はことわろう 三〇二

わかりやすい言葉で言おう 三〇四

第十六篇 ● 季氏

威嚇するより懐柔しよう 三〇六

人を見わけて、つきあおう 三〇八

いくつのときでも節度を保とう 三一〇

敬けんな気持ちをもとう 三一二

失敗したら、それを教訓にしよう 三一四

不遇でも、がんばっていこう 三一六

三一八

第十七篇 ● 陽貨

卷十

三三四

第十九篇 ● 子張

大らかさと熱心さをもちあわせよう 三三六

ときには自己評価する時間をもとう 三三八

みずから好んで学んでいこう 三四一

言いつくろうのはやめよう 三四二

まずは信用してもらおう 三四四

要点をおさえて行動しよう 三四六

みずから学んで、よくなっていこう 三三一
おせっかいにならないようにしよう 三三二
外柔内剛であろよう 三三四
偽善はやめよう 三三六
創意工夫を加えよう 三三八
親の恩に報いよう 三三九

第十八篇 ● 微子

大志をいだいて仕事しよう 三三三

第二十篇 ● 堯曰

寛大、信用、機敏、公正を重んじよう 三四八
身勝手をなくそう 三五五
人事をつくして天命をまとう 五二二

おわりに 三五四

卷一

第二篇



為政

第一篇



學而

❖ 聖蹟図より「孔子の母が尼丘山で祈っているところ」
孔子の母親・顔徴在が魯国の尼丘山で祈りをささげてから2年後、孔子が生まれました。その頭が尼丘山に似ていたことから、孔子は丘と名づけられ、その字は仲尼となったそうです。